

The Types of International Folktales. A Classification and Bibliography. Based on the System of Antti Aarne and Stith Thompson. 3 vols. (FF Communications 284-286.) Helsinki, 2004.

新カタログ作成の構想は以前からあったと  
いう。ATUは、世界の口承文芸研究者のあ  
いだで共通の話型カタログとして使用され  
きたATUのいわば根本的な「増補改訂新版」  
であり、以前からの話型提示の原則を変える  
ことなく、従来いわれてきたATUへの批判に

Part I: Animal Tales, Tales of Magic, Religious Tales, and Realistic Tales, with an Introduction. Part II: Tales of the Stupid Ogre Anecdotes and Jokes and Formula Tales

Part III: Appendices.

間宮  
史子

ハンス・エルク・ウターによる国際話刑

カタログが、フィンランド学術アカデミー発行の『民俗学連盟通信』(FFC) 一二八四一

ネルトムソン＝ウターでATUと略す。  
著者ウターは、ドイツのデュイスブルク  
エッセン大学教授で、ゲッティンゲン学術

(二) ジャンルの限定と登場人物による分類はときに、テーマの共通性も構造の共通性も見えなくしてしまった。

一八六三として一〇〇四年に出版された。アーネスト・ティ・アールネの『昔話の型のカタログ』

デミーの研究機関『昔話百科事典』の編集を長く務める。グリム兄弟が大学で教鞭を

(三) 一九世紀のフィンランド学派が口承伝承を集中的に研究したことで、書承資料は二次

F.F.C三(一九一〇年)、それをステイス・

たことで知られるゲッティンゲンは、世界の  
文芸研究の二つの中、「地」(うち)、「著者

文献とみなされ、口承話には本来比較的古い形で伝承されるところが多いため、怪観される。

四、一九二八年）、さらにその再増補版（F

考文芸研究のひとつの中心地であり、「昔書」科事典編集局には、世界中から資料や研究

形や位置がある。といふことが轉被された

○○号目、四三年後の新カタログの刊行で

果が集まつてくる。そのような環境において新話型カタログATUは生まれるべくして生

ある。これに西アジアとヨーロッパ人の入植地の話も加えられるが、ヨーロッパの話でさ

ある。表題にあるように、この新『国際昔話型』はアーレネ・トムソンによる『昔話の型

れだとともいえるが、ウターが四人の専門家となるサボートチームを得て、この大仕事を

(五) 類話が「ごくわずかしかなハオイコタイプ」  
え、均等に記録されていわけではない。

A(T) のシステムを土台にしており、アール

間で完成させたのは驚嘆に値する。

を別に提示することは、伝承の全体像をぼや

けさせ、分類体系を不必要に崩れあがらせる。

(六) 重要な研究文献についての情報が欠けている。

(七) 類話についての情報は古い資料について

は記載されているが、比較的新しい資料についてはほとんど考慮されていない。

(八) 話型の記述は、不十分で不正確であることが多く、男性の登場人物のみを中心に記述されていることが多い。

(九) いわゆる不規則型が入っていることは疑問である。

(一〇) 示された類話の多くは、資料館にある資料に基づいており、その資料を入手するのは容易ではない。

このような A.T カタログの問題に鑑み、A.T.U における話型の記述は、二〇〇三年までに発表された研究成果を考慮に入れて、新しく見直された。基本的な研究文献が載せられ、各地域のカタログや類話についての言及はさらに拡大された。A.Tにおいてさまざまな場所にばらばらに分類されていたため、内容のあるは構造的な共通性や類似性が見落とされてきた多くの話型はまとめ直された。二五〇以上の新話型が加えられたのに対して、長い期間まったく記録されおらず、ある一民族のみに存在する

ような話型は削除された。また、オイコタイプの多くは、すでにあって広く普及している話型に統合された。「話型」はそれぞれ、話型番号、

表題、その内容の記述をもつ。A.T.U における

「話型」は、順応性のあるもの、適応能力があるものとして理解され、絶えずほかのテーマの構成要素やメディアと統合されるものとどうえられている。

A.T.U は全三巻、三部からなる。I 部には、

序論、動物昔話、魔法物語、宗教的物語、現実的物語（ノヴェッラ）、II 部には、愚かな鬼の物語、逸話と笑話、形式譚が収められていく。

基本的には A.T の構成を踏襲しているわけだが、A.T における I 動物昔話、II 本格昔話、III 笑話と逸話、IV 形式譚、V 未分類の話という分類は姿を消すとともに、II 本格昔話の下位分類であった、A 魔法物語、B 宗教的物語、C ノヴェッラ（小説的物語）、D 愚かな鬼の物語が、動物昔話、逸話と笑話、形式譚と並立するようになつた。III 部は付録で、A.T.U で削除された話型、変更された話型、新話型の各番号、文献一覧、テーマ索引などが載せられている。以下に、A.T.U の構成を示しておく。

#### 魔法物語

超自然的敵対者 三〇〇—三九九、超自然的あるいは魔法にかけられた妻（夫）または他の親族 四〇〇—四五九、超自然的難題 四六〇—四九九、超自然的援助者五〇〇—五五九、呪物 五六〇—六四九、超自然的力あるいは能力 六五〇—六九九、

その他の超自然的物語 七〇〇—七四九

#### 畜

二〇〇—二一九、その他の動物と物

#### 一三〇—一九九

#### 畜

一四九、野獸と人間 一五〇—一九九、家畜

二〇〇—二一九、その他の動物と物

#### 二三〇—一九九

#### 畜

一四九、野獸と人間 一五〇—一九九、家畜

#### 二〇〇—二一九、その他の動物と物

#### 二三〇—一九九

愚かな鬼（巨人、悪魔）の物語

労働の契約 一〇〇〇—一〇二九、人間と

鬼の協力 一〇三〇—一〇五九、人間と鬼

の競争 一〇六〇—一一四、人間が鬼を

殺す（傷つける）一一一五一—一五四、人

間におびえる鬼 一一四五—一一五四、人

間が悪魔をだます 一一五五—一一六九、人

悪魔から救われた魂 一一七〇—一一九九

逸話と笑話

愚か者についての話 一一〇〇—一三四九、女

夫婦についての話 一三五〇—一四三九、女

についての話 一四四〇—一五四四、男につ

いての話 一五一五一—七二四、聖職者と信

者についての笑話 一七二五一—八四九、そ

の他の人間集団についての逸話 一八五〇

一八七四、ほら話 一八七五一—九九九

形式譚 一〇〇〇—一一〇〇、聞き手の気

をひく話 一一一〇〇—一二一九九、その他の

形式譚 一一一〇〇—一三九九

ATUの話型番号は、基本的にはATの番号

がそのまま変わらず使用されている。これは、

ATとの適合性はもちろん、今までに作成さ

れた新旧の諸カタログとの適合性をも考慮し

てのことである。しかし、ATにおいて異なつ

た場所に分類され、しばしば重複していた話型

はまとめ直された。そのようなATの誤りに

ついては、これまでに『昔話百科事典』の項

目でも頻繁に指摘されてきたことである。内容

的に誤って分類されていたいくつかの話型に

限っては、従来あつた場所から別の場所へ組み

込まれた。たとえば、ATで「〔三〕笑話と逸話」

のうちの「男についての話」に分類されていた

AT1587「自分が首吊りをされる木をさがすの

を許された男。木は見つからない」は、ATU

では「現実的物語（ノヴェシラ）」のうちの「賢

い行い」といはばに属すATU927Dとなつた。

ATの話型番号を保持するということは、

妥協を図ることでもある。そのためATUで

は、ひとつの話群の主タイプをなすような話

型のいくつかは、詳細な説明なしで載せられ

ている。たとえば、AT425とAT510には、

主タイプの項にその内容が説明されていて、

続くサブタイプの項には詳細な説明がなかつ

た。これに対して、ATU425「失った夫の探索」

では、「」の話型は関連する話群を示す。425A

—425E, 425M, 425\*のエピソードと結びつく。

参考400, 430, 432, 441」、また、ATU510「シ

ンデレラとろば皮」では、「」の話型番号は関

連する話群を示す。特に510Aと510Bを参照

のこと」とあるのみである。

ATUにおける話型記述方法について。「話

型名」は部分的には変更され、「話型の説明」

は新たに詳しく書き直された。登場人物の性

別を示し、主要な登場人物をあげ、また、A

Tでは避けられた性的なテーマや概念もさち

んと表現するべきであるという理由からであ

る。明らかな間違いや不正確な記述は削除さ

れた。話型を記述するにあたつては、能動的

敵対者をあげ、その行為、対象、状態を示す

ことが基本とされた。すると話型は、主たる

構造上内容上の構成要素と重要な登場人物が

含まれたひとつの基本形を提示することにな

る。ステイス・トマソン著『民間文芸モティ

フ索引』による「モティーフ番号」は、話型

の説明文の該当箇所に入れられている。ただ

し、モティーフ番号は最も重要なものを記すに

とどめ、各モティーフの内容も話型ごとに記

していない。また、「コンビネーション」に

は、その話型が結びつきうる話型が示され

いる。その基準はたいてい、そのコンビネー

ションが少なくとも三回確認された場合であ

る。「注記」には、文字に記録された重要な類

話、あるいは、その話型の古さ、起源、伝承

範囲、または特殊性があげられている。「文献／類話」の項にはまず、その話型についての重要な研究文献が出版年順にあげられる。次に類話、つまり、話型の地理的分布については、該当する地域・言語グループ・民族の話型カタログおよびモティーフカタログが一次資料としてあげられている。カタログについては、研究の最新情報を反映しており、それ以前のカタログの情報を批判的にとりいれているものをあげている。しかし、ATの「フィンランド・八、スウェーデン 五四」のように、各地の類話数をあげる」とはしていない。カタログの著者によつて類話のところや数え方が異なるし、類話数からのみ、その話型の広がりや影響を推論しようとする」とはほとんどの意味がないからである。

それでは、日本の昔話はどう扱われてゐるか。ATUであげられているのは、関敬吾のカタログ『日本昔話の型』（一九六六年）、池田弘子『日本の民間文芸の話型とモティーフ索引』（E.F.C.）（一九七一）である。ウターが序論で述べてゐるよつに、池田カタログには関カタログの話型番号が含まれてゐるのだが、池

田カタログが優先的に扱われてゐる。必要に応じて、関の『日本の昔話』（一九六三年）をあげ、稻田・小澤の『通観』も重視したといふ。これにはATに比べれば大きな前進である。しかし、ATのシステムに基づいて作成された池田カタログを優先使用したことによって、誤りや不一致も含まれてしまつてゐる。たゞ、ATU425「失った夫の探索」をみると、425A 「動物婚」には池田425A「いぬ婚子」、425B 「女性の息子」（キューーリッジ・サイキ）には池田425B「一寸法師」と428「水の神の使ひ」、425C「美女と野獸」には池田411A「いのとりの卵」411B「蟹葬婚」411C「三輪子」、425D「消えた夫」には池田312B「蛇婚」と413E「蛙女房」、425E「魔法にかけられた夫が子守り歌で知らせる」には池田312A「猿婚」があげられているが、「通観」は全くあげられていない。

また、ATU510をみると、510「シンデレラ」と「ねば皮」には稻田・小澤「通観」の言及があるが、510A「ハンドルニア」には池田510A「米福累福」、510B「ねば皮」には池田510B「姥皮」があげられるのみで「通観」はあげられてこない。つまりATUには、池田カタログ刊行以降の日本本の昔話についての研究成果がほとんど反映されていないなどといふべき事

情は、FF Network No.28掲載のATUの書評で小澤俊夫が指摘しているように、中国や韓国の昔話についても該当する」とと思われる。

しかしそれでも、ATUが「口承文芸の歴史的比較研究や特定の話についての研究をする際、国際的な話型をすればやく見つけることを可能にする道具である」とは間違いない。われた第一回國際口承文芸学会大会においてすでに、ATに代わってATUに拠る研究発表があったことがそれを示してゐる。カタログは道具であり、使用するためのものである。ある研究者がある時点で区切つて作成するカタログに、むしろまゝな意味において資料や文献のうえで限界があるのは自明のことである。国際話型カタログとしてのATUのさらなる改良に資していくためにも、私たち日本の口承文芸研究者には、研究成果を積極的に外へ発信していくことがこれからますます重要にならなくてはならない。

(Academia Scientiarum Fennica' Part I

六 | 六四 | Part II | 六五 | Part III | 六五  
頁、Parts I—III 九九ユーロ (ヘルツカ

バー) 九〇ユーロ (ソフトカバー))  
(カミヤ・エヌ・エフ・出版女子大学)